

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	HELLFIRE	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：HELLFIRE

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

比較対照ボール：T-REX

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

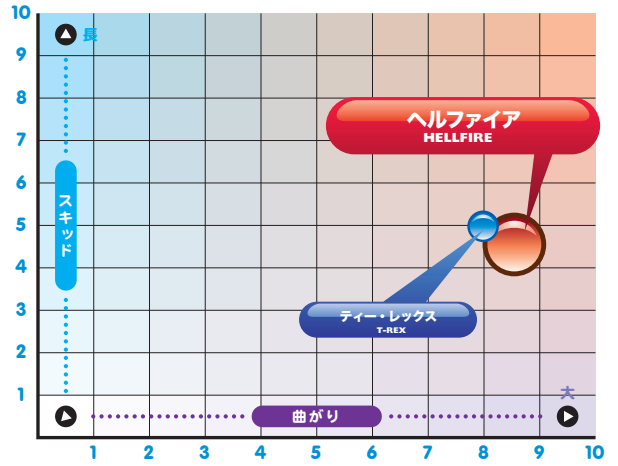
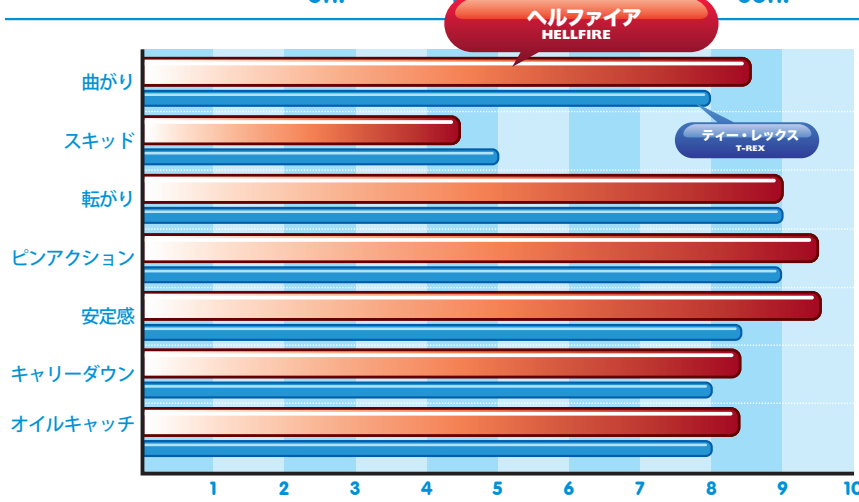
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

NATURAL ENEMIESはEBI(EBONITE INTERNATIONAL)に独自の研究室を持ち、カバーストックからコアデザインまで日本主導のオリジナルのテクノロジーを使用できるところに利点があります。

今回のHELLFIREはT-REXに使用したLCD(Low Crosslink Density)の数値を上げながら、スキッド、キャッチ、バックエンドリアクションに至るまで高いレベルでの仕上がりを求めました。こだわりはMidから大きくネジれながらも先までしっかり曲り続ける新開発のコア。スキッドを作りながらもしっかりとオイルを捉えるLCDカバーストックにあります。

このボールは数多くの作り直しから生まれました。粘り強いカバーストックの添加物の抽出からそれに見合うCoreTechnology、それをひとつひとつ検証し、幾度となくサンプルボールを作り可能性を広げていったボールです。今回の表面仕上げもこのボールに最適なパフォーマンスを提供できる仕上げの自負があります。

T-REXとの比較投球でもかなり強めのカバーストックのT-REXよりかなり早めに第一段の動きははじめが見られます。特徴なのがHOOK状態が他のボールよりも長めに感じること。このHOOK状態がボールの安定感を作り、第二段でそこからのROLLでポケットまで強く動き続けます。なんとと言っても”曲がり続ける”イメージが強く、二段階に曲がりを感じながらもROLL期にフリップさえ感じられるのもHELLFIREを発売に至った経緯でもあり、一番の特徴とも言えます。またNATURAL ENEMIES発足同時から続くLCDが連動している柔らかなピンアクションも十分発揮できており、ミディアムヘビーからミディアムまでをカバーします。柔らかく曲がり始め、フリップ状にも思えるリアクションはコントロール性能と共に低めで柔らかなピンアクションをも実現させます。

特記事項

NATURAL ENEMIES最新作は2段モーションながら、曲りもピンキャリアも柔らかなイメージが特徴。フリップ感のある動きはコントロールと扱いやすさを高い次元で表現できています。